

---

# とある学園都市の悪魔

ITEM

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある学園都市の悪魔

### 【Nコード】

N4254BA

### 【作者名】

ITEM

### 【あらすじ】

超能力者でありながら聖人という常識外れな力を持つ少年、神鬼大和。

彼は裏の世界では知らぬ者なしと恐れられる『学園都市の悪魔』

## 神鬼 大和

人気がない暗い路地裏を一人歩く少年がいた。

その身長、その童顔から見て中学生ぐらいだろうか。

細長い針のような物を右手の指でクルクルと器用に回しながら、退屈そうに歩く少年の後方から突然何かが飛んで来る。

ヒュン、という金切り音と共に凄まじい速さで少年の頭部に向かっているのは釘だった。

だが少年は振り返ることなくまるで後ろにも目が付いているかのよううに頭を横に傾け釘を躲した。

「不意打ちかア！ 絶対排斥も随分とせけエ真似すんだなア！」  
レススタント

少年は前を向いたまま後ろにいるであろう釘を飛ばした犯人を挑発する。

少年は手に持っていた細長い針、『千本』を後ろに向けて投げた。人間が投げたとは信じられない速さで放たれた千本は何か金属に当たったのか、カン！ という音を立てて地面に落ちた。

「・・・相変わらず化け物みてえな力してやがる。俺の釘を弾き飛ばすとはな」

「聖人の力舐めるなよ。テメエの首なんざ木の枝みてエに折れんだぜ？」

少年は拳をボキボキと鳴らしながら引き裂くような笑みを浮かべる。釘を放った少年、ライエは警戒心を高める。少年が拳を鳴らすのは目の前にいる自分を明確な敵と認識した合図だからだ。

つまりー知り合いだからという手加減はもうないことを意味する。

「安心しな。殺しやしにしねエよ。だけど・・・」

首をゴキゴキと鳴らしながら少年は言った。

「ちいとばっか遊ばせてもらうぜ」

言い終わったのと同時に少年は一気に距離を詰め、そのままライエに蹴りを放つ。

「っ!?!」

爆発的なスピードで放たれた蹴りを受けたライエは後ろに吹き飛ばしてしまう。

「ゲホッ、ゲホッ!!」

能力で壁と激突した衝撃はなんとか相殺したがモロに入った蹴りのダメージから激しく咳き込む。

「汚エなア。咳きすんなら手で押さえてしろよなア」

余裕の笑みを浮かべながら少年は言った。

「クソガキが・・・!!」

「おー怖い怖い。そオ睨む・・・なって!!」

少年は再び蹴りを放つ。ライエはなんとか躲したが次はないだろう。爆発的なスピードの蹴りは先程までライエがいた壁を粉々に粉碎する。

「っーかなんでテメエはオレを襲ったんだよ？ まさか死神みてエな殺人鬼に転職でもしたのかア」

「綾季の事だ!! てめえがあいつを『裏の序列』（ブラックリス）のトップに推薦したのはわかってんだよ!!」

ライエは凄まじい殺意を秘めた目で少年を睨み付けながら怒鳴った。

「てめえならわかってる筈だ!! あれのトップになった奴が、どうなるかぐらい!!」

「もちろん知ってるぞ」

「だったらどうして!？」

「はア〜ライエ君。テメエはなんにもわかってねエなア〜」

少年は大きな溜息を吐きながら呆れたように言った。

「テメエはアイツがただのお花畑な超能力者（レベル5）だと思ってるのか？」

「どづいつ事だ・・・!!」

「アレはテメエが思ってるほど無害な化け物（レベル5）じゃねエ  
つて事だア」

「ふざけるなああつ!!!!」

ライエは斥力を全開にして少年に迫る。

そのままライエは少年の顔面に向かって拳を放った。

目にも留まらぬスピードで放たれた拳は確かに少年の顔面を捉えた。  
本来なら首は吹き飛ぶ筈。しかし少年は痛がる素振りすらみせずこ  
う言った。

「痛ってエなア」

少年はライエの右手を掴むと骨を折った。

「ぐ、ぐあああああつ!!!!」

折られた右手を押さえながらライエは思わず蹲った。

少年はそのスキを逃す筈もなくライエの腹に蹴りを入れる。

凄まじいスピードで後ろに吹き飛んだらライエはそのまま壁に激突  
する。

痛みでうまく演算出来なかったせいかわかぬが激突の衝撃を完全には相殺出  
来ず、前と後ろの両方から激しい痛みが襲う。

「大能力者（レベル4）風情が、来易くオレに触れてんじゃねエよ」

少年は倒れているライエの首を片手で掴むとそのまま持ち上げた。

「ぐう……!!」

ライエは少年の手を掴みながら必死に抵抗するが微動だにできなかった。

「最高にムカついた。このまま首の骨、へし折ってやるよオ」

少年が手に力を入れようとしたその時だった。

少年に向かって何やら黒っぽいものが襲いかかった。

少年はライエを放り投げると横っ飛びでそれを躲す。

少年を襲ったそれは――影のようなものだった。

「子供の喧嘩にしちゃあやり過ぎだぞ」

路地裏に新しい声が響く。

「それぐらいにしとけ。これ以上やるなら、俺もライエに加戦するぞ」

「相変わらず上から目線でムカつく野郎だ。ブツ殺すぞ、クソ暗根が」

そうは言っても少年には目の前にいる人物を殺すことは出来ない。

彼の名前は常闇直人<sup>とこやみなおと</sup>。

少年がこの街で絶大な信頼を寄せている数少ない人物。

「いいのかな？ そんな口の利き方して」

「あア？」

「華芽に言い付けるぞ。お前がライエを殴った、って」

華芽という名前が出た途端、少年はビクツと反応した。

「……すみませんでした」

湧き上がる殺意を必死に抑えながら少年は常闇に謝罪した。

「よろしい」

常闇は微笑みながら言った。

「クソツタレが……！」

少年は人間離れた脚力で建物の屋上まで飛び上がるとそのまま学園都市の闇へと消えて行った。

少年の名前は神鬼大和。裏の世界では知らぬ者なしと恐れられる『学園都市の悪魔』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4254ba/>

---

とある学園都市の悪魔

2012年1月11日10時45分発行